臨海部の道路網の整備に関する要望

平成２０年１２月２日
横浜市幹線道路網建設促進協議会
会　長　　藤　木　幸　夫

都市の道路は、市民生活や経済活動を支える最も根幹となる施設である。

横浜港では、平成１６年４月に、国道３５７号横浜ベイブリッジ区間が開通し、本牧ふ頭と大黒ふ頭の連絡が強化され、都心を通過せざるを得なかった港湾の物流関連交通が横浜港の上空を直接通行できることになり、物流機能の強化に飛躍的な進展が見られたところである。

しかしながら、供用直後は１日あたり６，７００台程度であった交通量が大幅に増加し、平成１８年１１月の調査では約１９，３００台となっており、特に大黒ふ頭から本牧ふ頭に向かう道路での混雑や新山下地区の交差点での渋滞が激しい状況にある。

これまで当協議会の度重なる要望に対し、本来の目的である円滑な交通の流れを維持するべく、混雑や渋滞の緩和の対策に速やかに着手していることは高く評価できるものである。

今後とも、横浜港がその国際競争力を一層、高め、東アジアにおける中枢的港湾として発展していくため、港湾物流に円滑かつ的確に対応できる道路網の構築が不可欠と考える。

そこで国等においては、次の事項について取り組まれることを強く要請する。

一．横浜港のスーパー中枢港湾機能の一層の拡充に向け、国道３５７号（ベイブリッジ区間）へ接続する臨港道路（本牧出口改良）の早期供用など、臨海部道路網の一層の充実を図ること。